

持続可能な生活排水処理施設の構築に向けて

～ 兵庫県生活排水効率化推進会議の設立 ～

平成30年2月

兵庫県県土整備部土木局下水道課

目次

1. 兵庫県概要
2. 現状と課題
3. これまでの取組
4. 兵庫県生活排水効率化推進会議の設立
5. 今後の進め方
6. さいごに

1. 兵庫県の概要

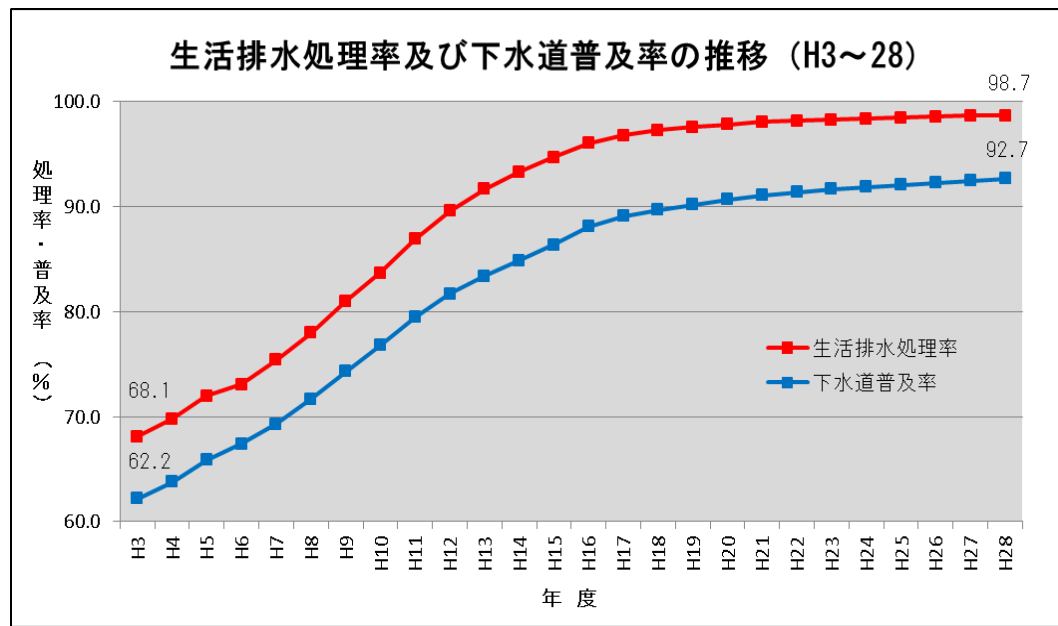


- 北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋と続いている
- 日本標準時子午線（東経135度）が県内9市を通過
- 大都市から農山村、離島まで様々な地域で構成され、多様な気候と風土を通じて、海水浴やスキー、温泉などの多彩なレジャーが楽しめることから「日本の縮図」といわれている
- 面積は約8,400km²で全国12位、人口は約550万人で全国7位
- 県内の市町数は、29市12町の計41市町

2. 現状と課題

(1) 現状

- 平成3年度から16年度に『生活排水99%大作戦』、平成17年度から21年度に『生活排水99%フォローアップ作戦』を展開
- 平成28年度末の生活排水処理率は98.7%で全国第2位、下水道普及率は92.7%で全国第5位



(2) 課題

- 兵庫県の人口は2009年 (H21) をピークに減少局面に転じ、2040年 (H52) には現在の約8割まで減少するとの予測 (国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月推計)
- 施設 (管渠・処理場) 老朽化に伴う改築更新需要の急激な高まり
- 下水道職員の減少 (兵庫県下の下水道部局の職員数はH17からH26の10年間で約16%減 (下水道統計より))

3. これまでの取組

(1) 施設の統廃合

- 県は、兵庫県下水道維持管理適正化協議会などの場を通じ、市町の維持管理上の課題解決に向けた技術的な助言や、施設の統廃合に関する協議調整を実施
- 結果、平成29年7月末現在、38施設（下水道（特環含む）6、農業集落排水18、コミュニティ・プラント14）が統廃合により廃止され、568施設（下水道（特環含む）136、農業集落排水312、漁業集落排水13、コミュニティ・プラント89、小規模等18）となっている

(2) 統廃合の例（豊岡市）

- 現在の豊岡市は、平成17年4月に6市町（旧豊岡市、出石町、但東町、城崎町、竹野町、日高町）が合併して誕生
- 合併により豊岡市の生活排水処理施設は、下水道（特環含む）11、農業集落排水32、漁業集落排水4、コミュニティ・プラント3、小規模4の合計54施設となる
- 現在、半分以下の23施設まで統合する計画で事業を実施中

《参考》 豊岡市 統廃合計画 系統図

施設種別	統廃合前						統廃合後
	豊岡	出石	但東	城崎	竹野	日高	
計	13	7	7	6	12	9	54
下水道	1	1	1	1	1	1	6
農業集落排水	10	5	5	4	10	8	47
コミュニティ・プラント	2	1	1	1	1	0	6
小規模	0	0	0	0	0	0	0
計	3	1	2	5	10	2	23

4. 兵庫県生活排水効率化推進会議の設立

持続可能な生活排水処理施設の構築に向け、施設の統廃合を更に促進するとともに、市町の枠を超えた広域化・共同化等を検討する場として、**改正下水道法により創設された協議会制度を活用した『兵庫県生活排水効率化推進会議』を平成29年8月29日に設立**

(1) 会議の概要

● 構成員

国土交通省近畿地方整備局、兵庫県、
県内全41市町、1事務組合、
JS等の支援団体（オブザーバー）

● 事務局

兵庫県県土整備部土木局下水道課

● 検討内容

- ①同一市町内での**施設統廃合の更なる促進**
- ②**市町を跨がる施設の共同化・統廃合**
- ③**広域化・共同化（維持管理・事務）**
- ④技術支援方策の活用及び拡充
- ⑤効率化に向けた啓発、情報提供
- ⑥**「広域化・共同化計画」の策定**

(2) 会議写真



5. 今後の進め方

(1) 兵庫県生活排水効率化推進会議

- 施設の統廃合など、検討する内容が特定の市町に限定されるものが多いことから、**検討内容に応じて、関係者による部会を設置**
- 本会議は、統廃合や広域化・共同化等に関する情報提供、県全体で検討すべきもの、各部会の報告などを主な内容とし、**毎年6月頃開催**する予定

(2) 部会

①行政界を超えた統廃合検討部会

行政界を超えた生活排水処理施設の統廃合について、検討地区を抽出し、廃止側と受入側の双方に利益があることを前提に、その効果と課題を整理するとともに、実施の可能性について検討

②流域編入検討部会

※国土交通省「下水道事業における補完体制の構築による執行体制強化方策検討業務」モデル地区

人口減少社会においても流域下水道のポテンシャルを最大限発揮できるよう、新規参入市町を受入れる流域拡大等について、大幅な人口減少が懸念される加古川上流流域で多可町をモデルに、その効果と課題を整理するとともに、実施の可能性について検討

5. 今後の進め方

(3) 部会の開催状況

①行政界を超えた統廃合検討部会（ワークショップ形式）

第1回

日時：平成29年11月2日(木) 14:00～16:00

対象：県による机上抽出及び参加希望のあった5箇所

内容：受入可能量、接続ルートの検討 他



第2回（予定）

日時：平成30年2月13日(火) 14:00～16:00

対象：第1回と同じ

内容：概算工事費の検討、施工区分等の考え方 他



②流域編入検討部会

国土交通省「下水道事業における補完体制の構築による執行体制強化方策検討業務」の成果を基に、県及び関係市町を部会員に第1回部会を開催予定（平成30年3月）

6. さいごに

- ◆まずは“場”づくり
- ◆つぎに“熱”が冷めないように
- ◆そして“ゼロベースで検討”してみる
- ◆と、意外に…